

令和4年度 武蔵野市男女平等に関する意識調査
報告書 概要版【未定稿】

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 回収状況	1
4 調査項目	1
5 調査結果の見方	1
第2章 調査結果	2
1 あなた自身について	2
(1) 自認する性別	2
(2) 年齢	2
(3) 職業	2
(4) 結婚の有無	3
(4-1) 共働きの状況	3
(5) 世帯構成	3
2 日頃の生活について	4
(1) 育児・介護・家事について	4
(2) 職業以外の活動について	7
(2-1) 参加できていない理由	7
3 ワーク・ライフ・バランスについて	8
(1) 性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと	8
(2) 仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想と現実）	9
(3) 男性が家事等に参加するために必要なこと	10
(4) 職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの	11
4 男女平等意識について	12
(1) 男女の地位の平等感	12
(2) 男女平等に関する考え方	13
(3) 男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み	14
(4) 性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと	15
5 コロナ禍での行動変化について	16
(1) コロナ禍での生活や行動の変化	16
6 性の多様性について	17
(1) 自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無	17
(2) 性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策	18
7 暴力やハラスメントについて	19
(1) 暴力にあたると思うことと被害の経験	19
(2) ハラスメントを受けた経験	21
(3) 受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか	21
(3-1) 相談しなかった理由	22
(4) 相談窓口の認知度	22
(5) 配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために必要な施策	23
8 市の施策について	24
(1) 男女平等に関する言葉や武蔵野市の取り組みの認知度	24
(2) 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと	25

第1章 調査の概要

1 調査の目的

武蔵野市では「武蔵野市男女平等推進に関する条例」に基づき、男女平等を推進する施策を総合的かつ計画的に実施するため、令和5年度末に「武蔵野市第五次男女平等推進計画」の策定を予定している。その基礎資料とするため、この調査を実施した。

2 調査の設計

- (1) 調査対象者：武蔵野市内在住の満18歳以上の方
- (2) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 調査方法：郵送配布-郵送・WEB回収併用
- (4) 調査期間：令和4年8月31日（水）～9月21日（水）

3 回収状況

- (1) 配布数：2,000人
- (2) 有効回収数：908人（女性：534人、男性：364人、それ以外：1人、回答しない：4人、無回答：5人）
- (3) 有効回収率：45.4%（前回調査：35.6%）

4 調査項目

- (1) あなた自身について
- (2) 日頃の生活について
- (3) ワーク・ライフ・バランスについて
- (4) 男女平等意識について
- (5) コロナ禍での行動変化について
- (6) 性の多様性について
- (7) 暴力やハラスメントについて
- (8) 市の施策について

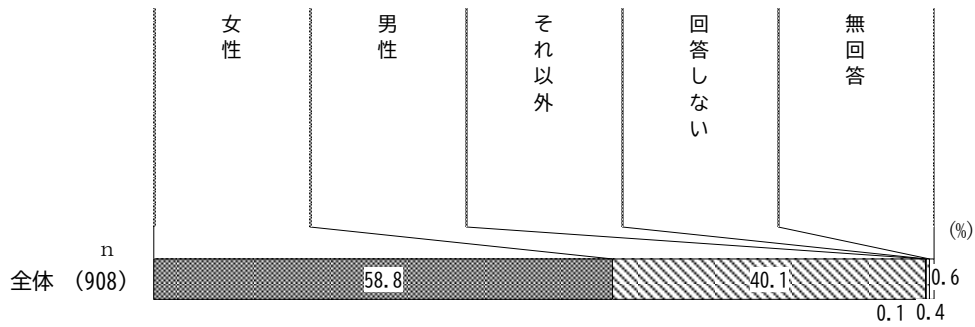
5 調査結果の見方

- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答（2つ以上回答可）の設問においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 本文・グラフは、表示の都合上、選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

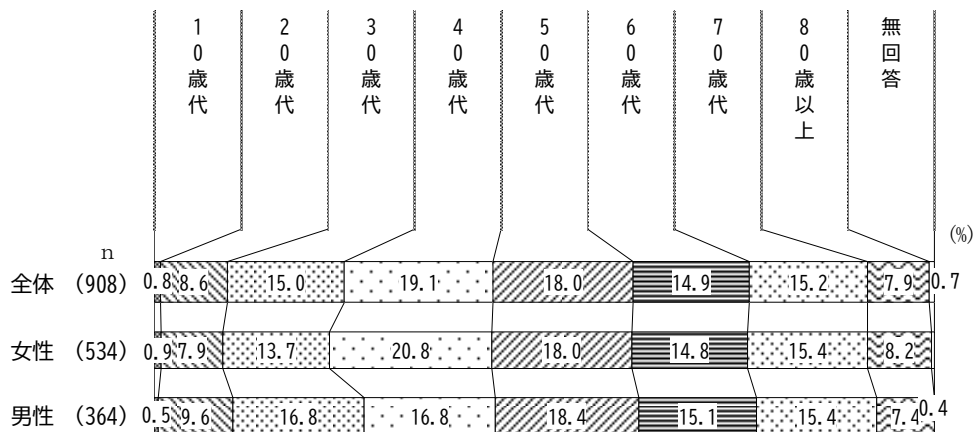
第2章 調査結果

1 あなた自身について

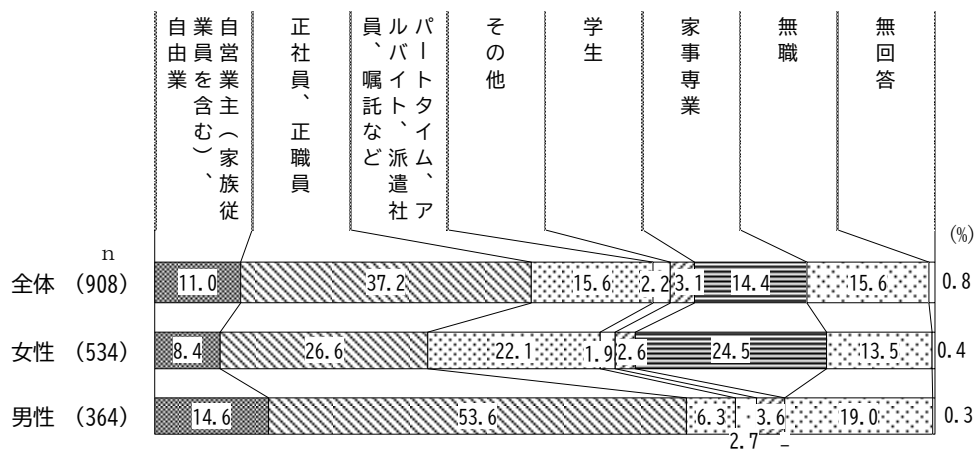
(1) 自認する性別



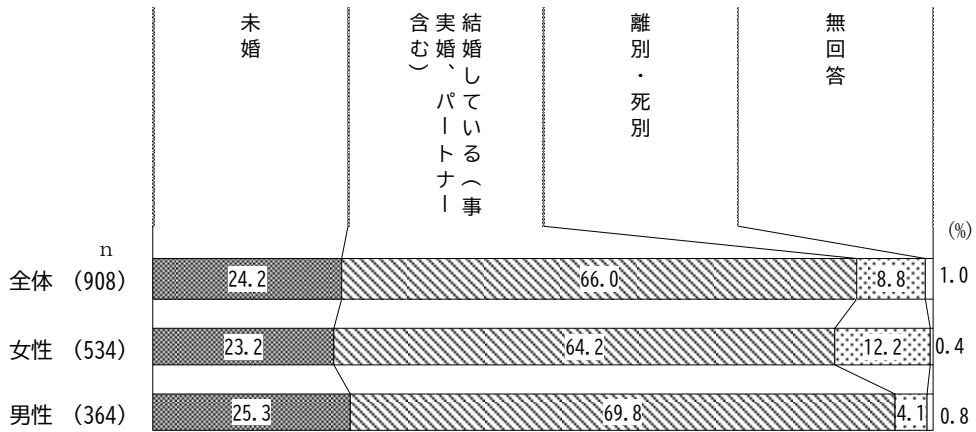
(2) 年齢



(3) 職業

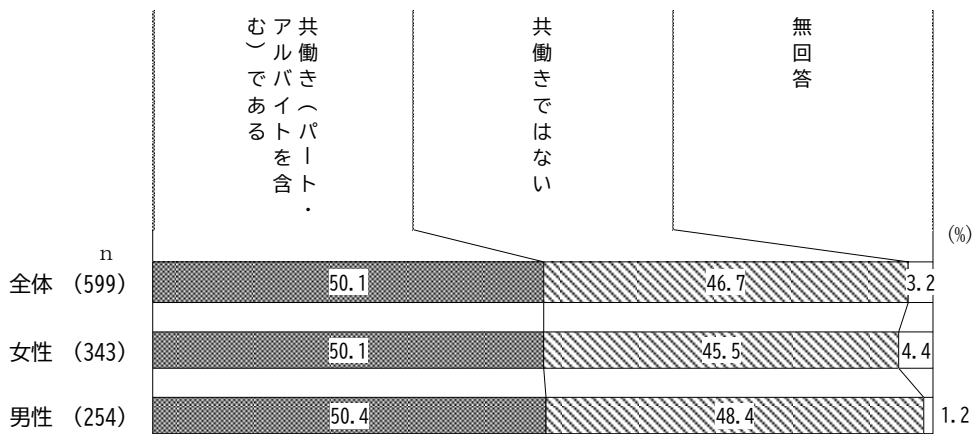


(4) 結婚の有無

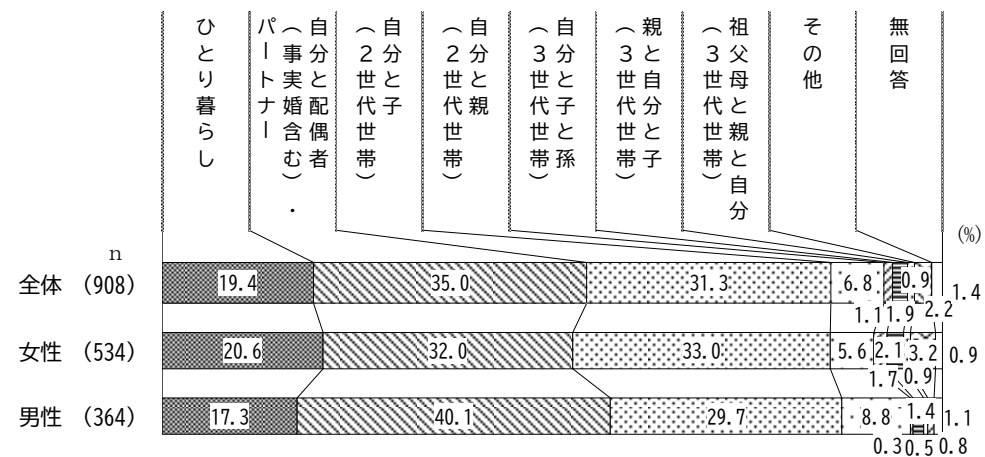


(4-1) 共働きの状況

【(4)で「結婚している（事実婚、パートナー含む）」と回答した方】



(5) 世帯構成



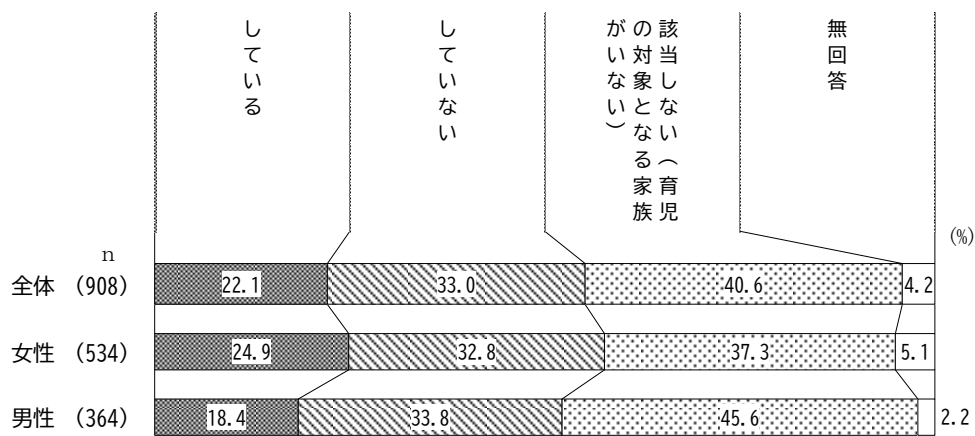
2 日頃の生活について

(1) 育児・介護・家事について

問1 あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護をしていますか。また、している場合は、どの程度時間をかけていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

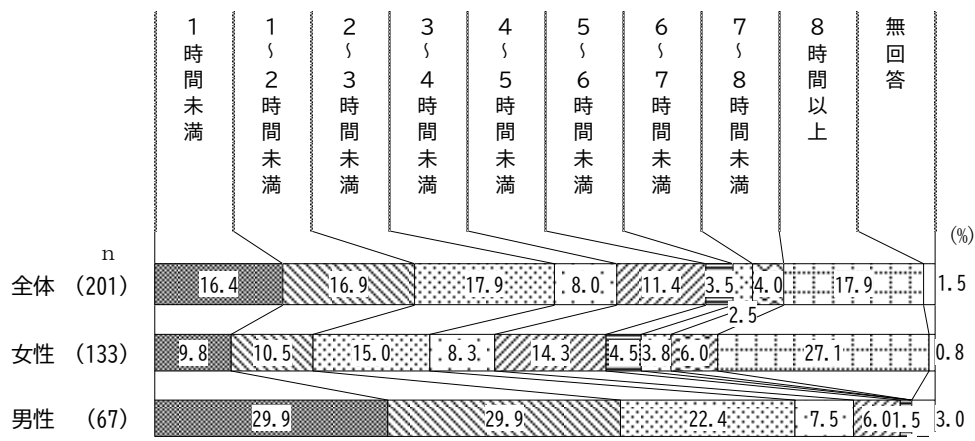
【育児】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

育児への従事状況を性別で見ると、「している」は、女性24.9%、男性18.4%と、女性が男性を6.5ポイント上回っている。



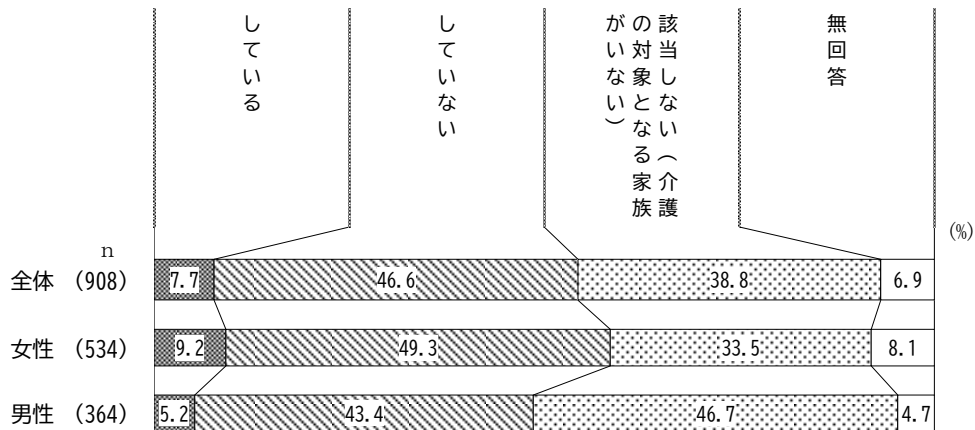
【育児】1日の平均時間

育児への従事の平均時間を性別で見ると、女性は「8時間以上」が27.1%と最も多い。男性は「1時間未満」と「1～2時間未満」がともに29.9%と最も多い。



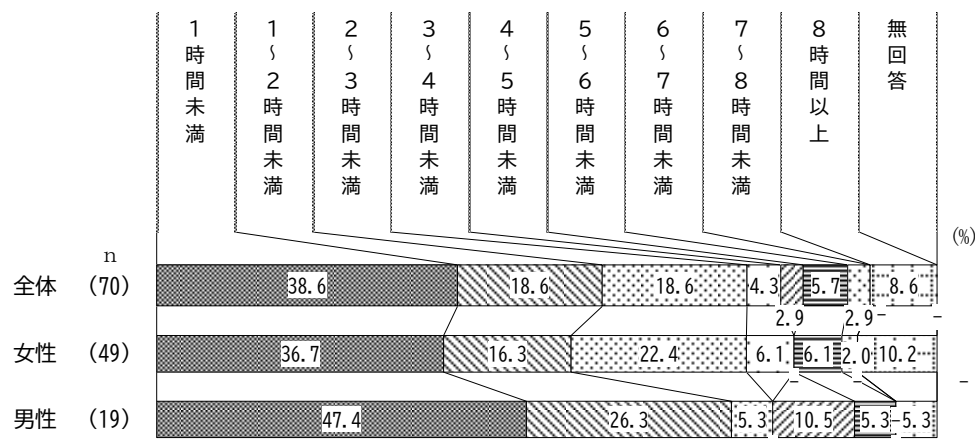
【介護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

介護への従事状況を性別で見ると、「している」では、女性9.2%、男性5.2%と、女性が男性を4ポイント上回っている。



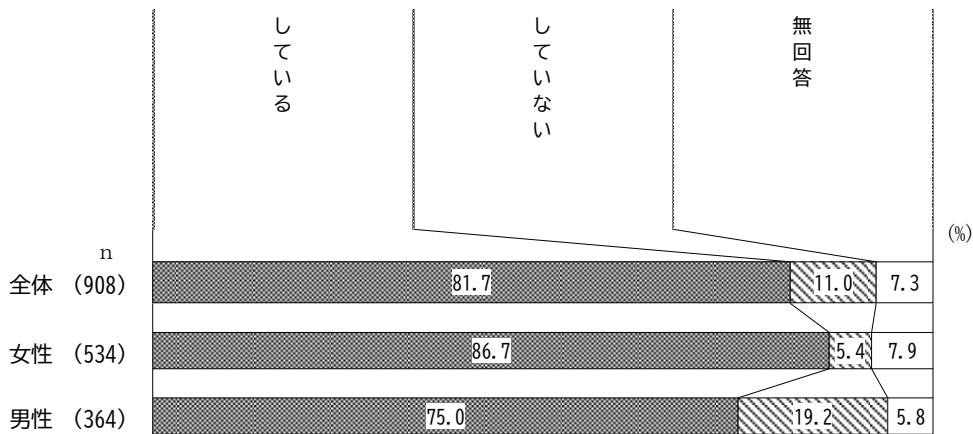
【介護】 1日の平均時間

介護への従事の平均時間を性別で見ると、「2～3時間未満」（女性22.4%、男性5.3%）では、女性が男性を17.1ポイント上回っている。「1～2時間未満」（女性16.3%、男性26.3%）では、男性が女性を10ポイント上回り、「1時間未満」（女性36.7%、男性47.4%）では、男性が女性を10.7ポイント上回っている。



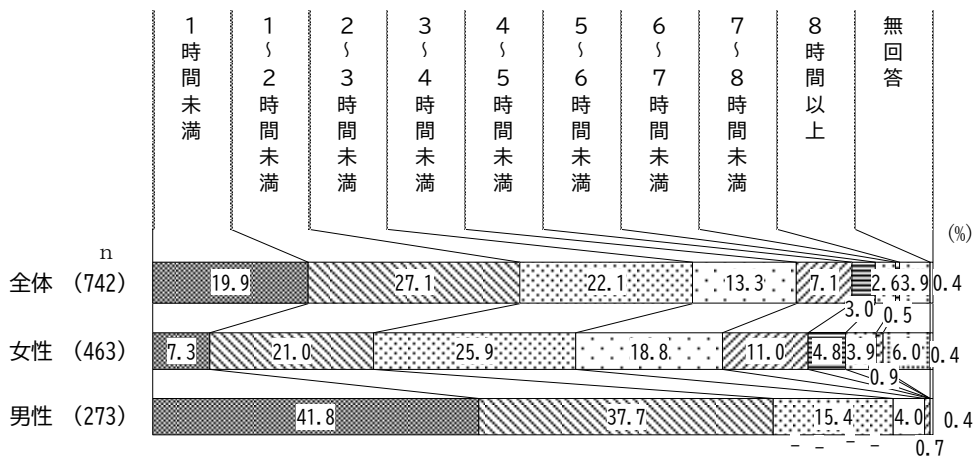
【家事】（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど）

家事への従事状況を性別で見ると、「している」（女性86.7%、男性75.0%）では、女性が男性を11.7ポイント上回っている。



【家事】 1日の平均時間

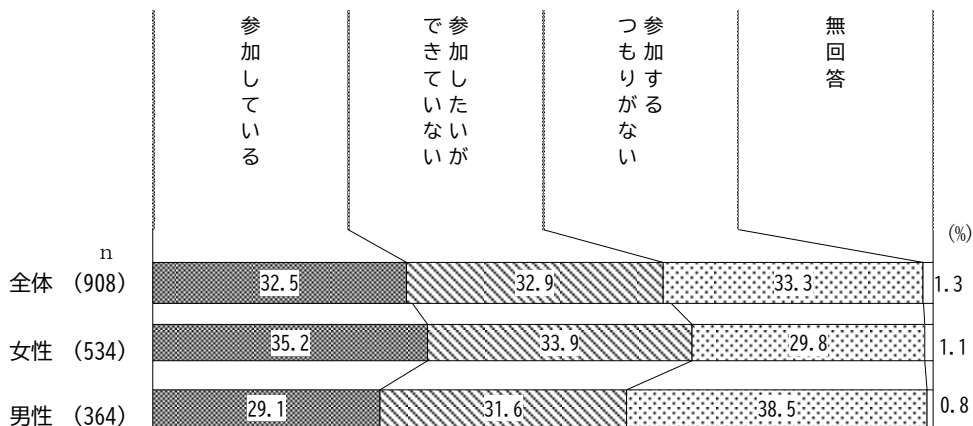
家事への従事の平均時間を性別で見ると、女性は「2～3時間未満」が25.9%と最も多い。男性は「1時間未満」が41.8%と最も多い。



(2) 職業以外の活動について

問2 あなたは、職業以外の社会活動、地域活動（ボランティア、NPO、コミュニティセンター、PTA、趣味・サークル・スポーツ等の活動）に参加していますか。（○は1つ）

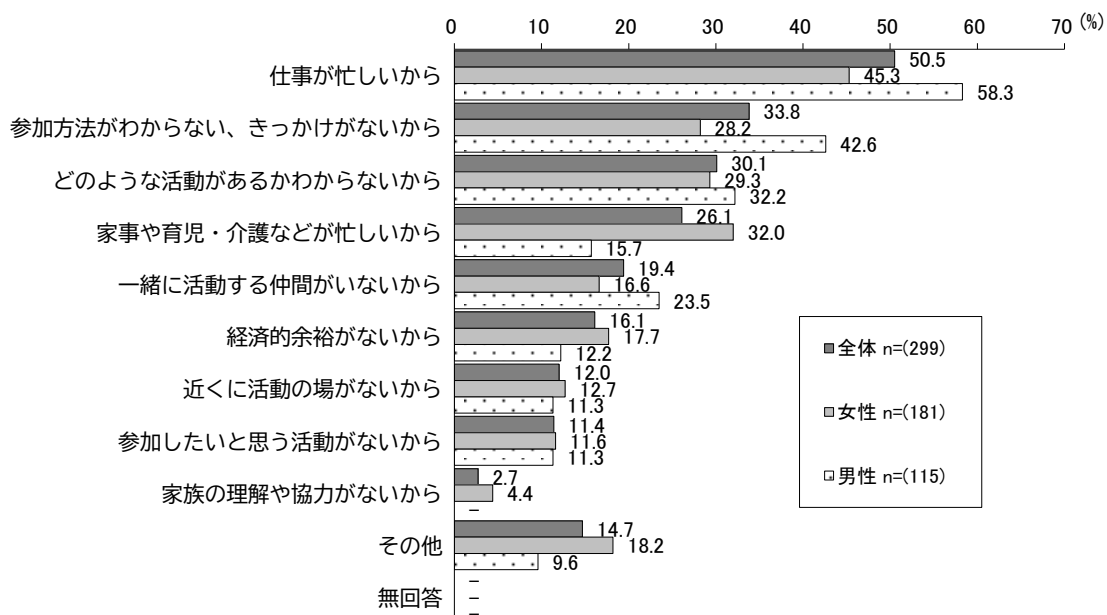
職業以外の活動について性別で見ると、女性は「参加している」が35.2%と最も多く、男性は「参加するつもりがない」が38.5%と最も多い。「参加している」では、女性が男性を6.1ポイント上回っている。



(2-1) 参加できていない理由

問2で「参加したいができていない」と回答した方にお聞きします。
問2-1 あなたが参加できていないのはなぜですか。（○はいくつでも）

参加できていない理由を性別で見ると、男女共に「仕事が忙しいから」（女性45.3%、男性58.3%）という回答が最も多く、男性が女性を13ポイント上回っている。続いて女性では「家事や育児・介護などが忙しいから」が32.0%、男性では「参加方法がわからない、きっかけがないから」が42.6%とそれぞれ多い。

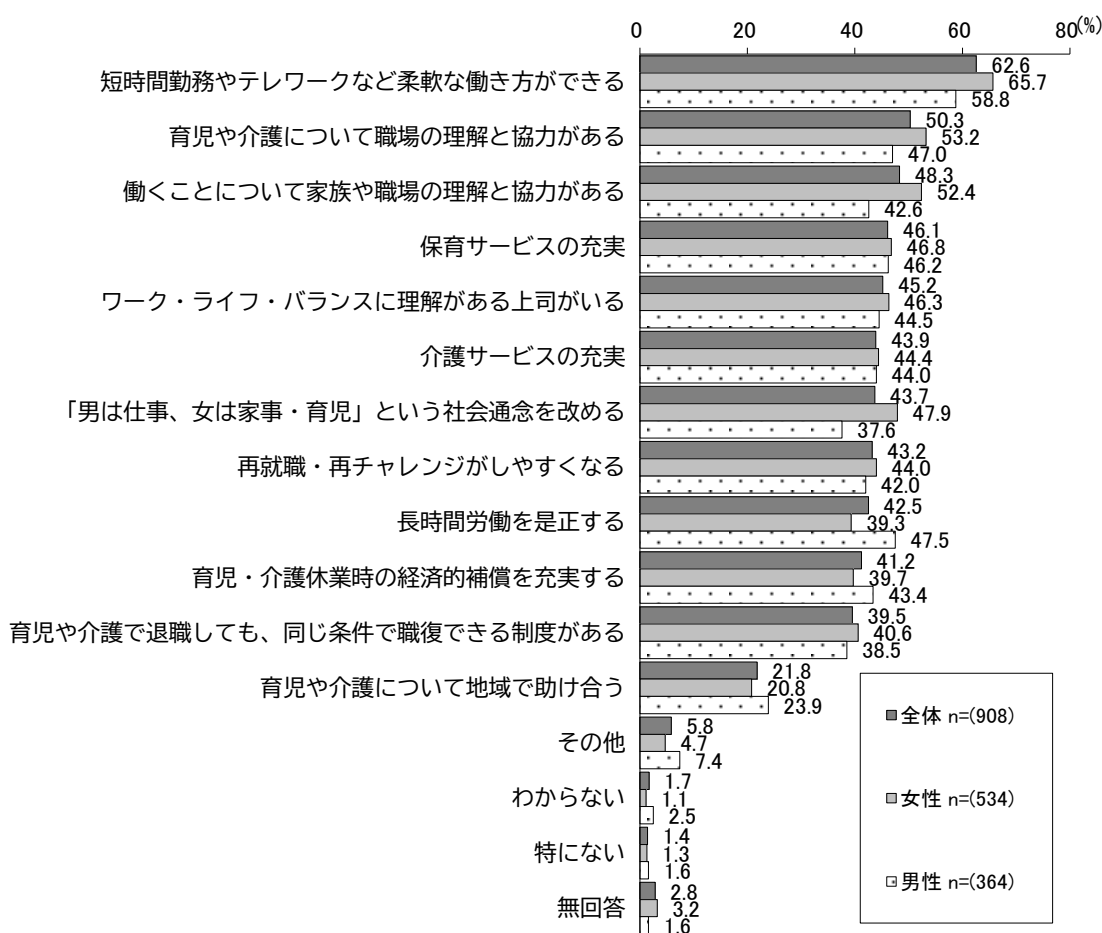


3 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと

問3 あなたは、性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

性別にかかわらず働きやすくなるために必要だと思うことを性別で見ると、男女共に「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」(女性65.7%、男性58.8%)という回答が最も多く、女性が男性を6.9ポイント上回っている。「長時間労働を是正する」(女性39.3%、男性47.5%)では、男性が女性を8.2ポイント上回っている。

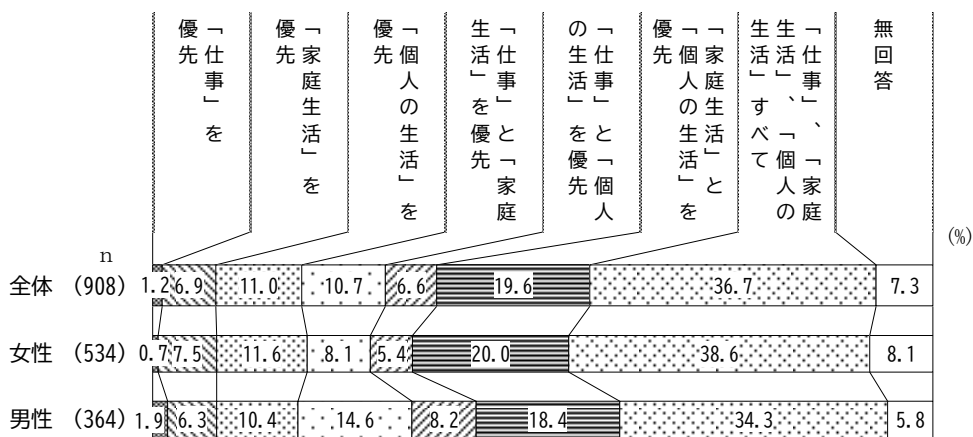


(2) 仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想と現実）

問4 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

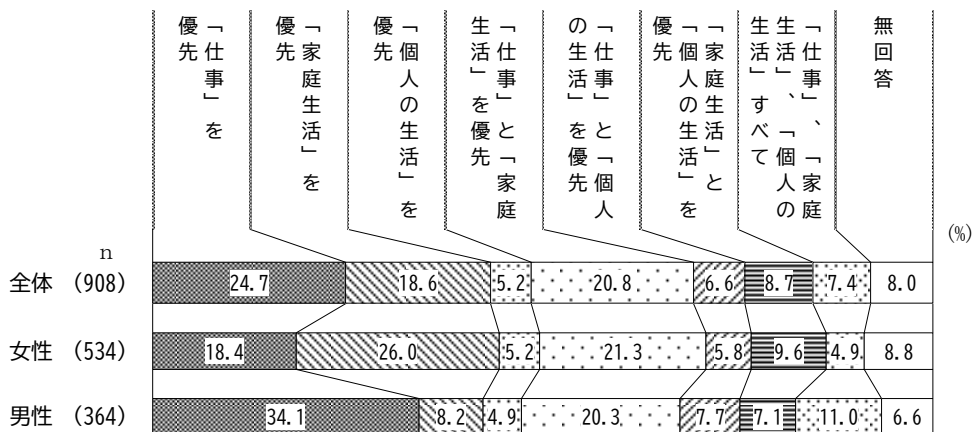
【自身の「理想」に近い優先度】

仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度を性別で見ると、男女共に「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて（女性38.6%、男性34.3%）という回答が最も多く、次いで「家庭生活」と「個人の生活」を優先（女性20.0%、男性18.4%）が多い。



【自身の「現実」に近い優先度】

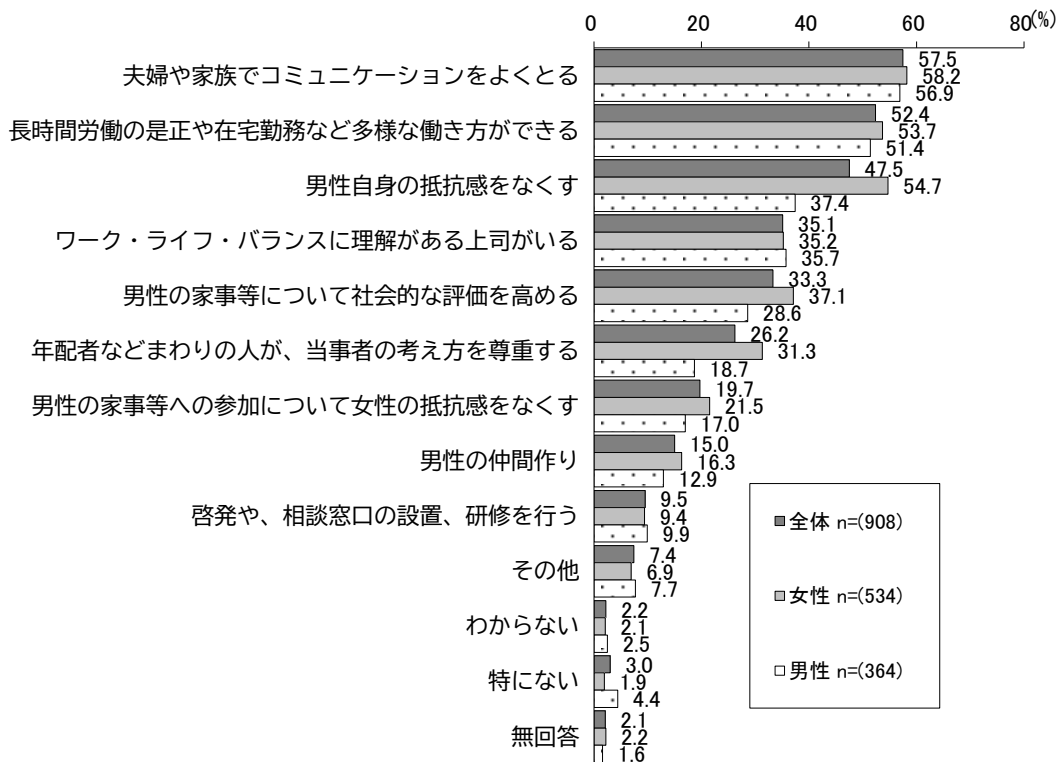
仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度を性別で見ると、女性は「家庭生活」を優先という回答が26.0%と最も多く、男性は「仕事」を優先が34.1%と最も多い。次いで、男女共に「仕事」と「家庭生活」を優先（女性21.3%、男性20.3%）が多い。



(3) 男性が家事等に参加するために必要なこと

問5 あなたは、男性が家事等（家事・育児・介護・地域活動）に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

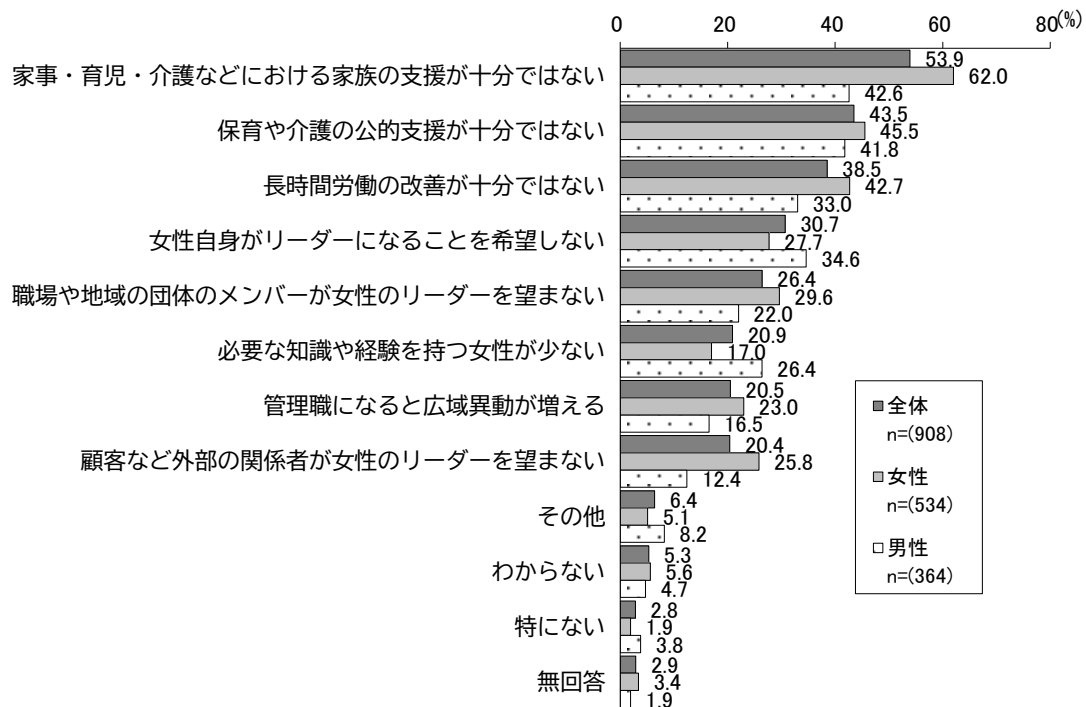
男性が家事等に参加するために必要だと思うことを性別でみると、男女共に「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」（女性58.2%、男性56.9%）という回答が最も多い。「男性自身の抵抗感をなくす」（女性54.7%、男性37.4%）では、女性が男性を17.3ポイント上回っている。



(4) 職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの

問6 あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

職場や地域で女性リーダーを増やす際に妨げとなるものは何だと思うかを性別でみると、男女共に「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」(女性62.0%、男性42.6%)という回答が最も多く、女性が男性を19.4ポイント上回っている。また、「女性自身がリーダーになることを希望しない」(女性27.7%、男性34.6%)では、男性が女性を6.9ポイント上回る一方で、「顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない」(女性25.8%、男性12.4%)では、女性が男性を13.4ポイント上回っている。



4 男女平等意識について

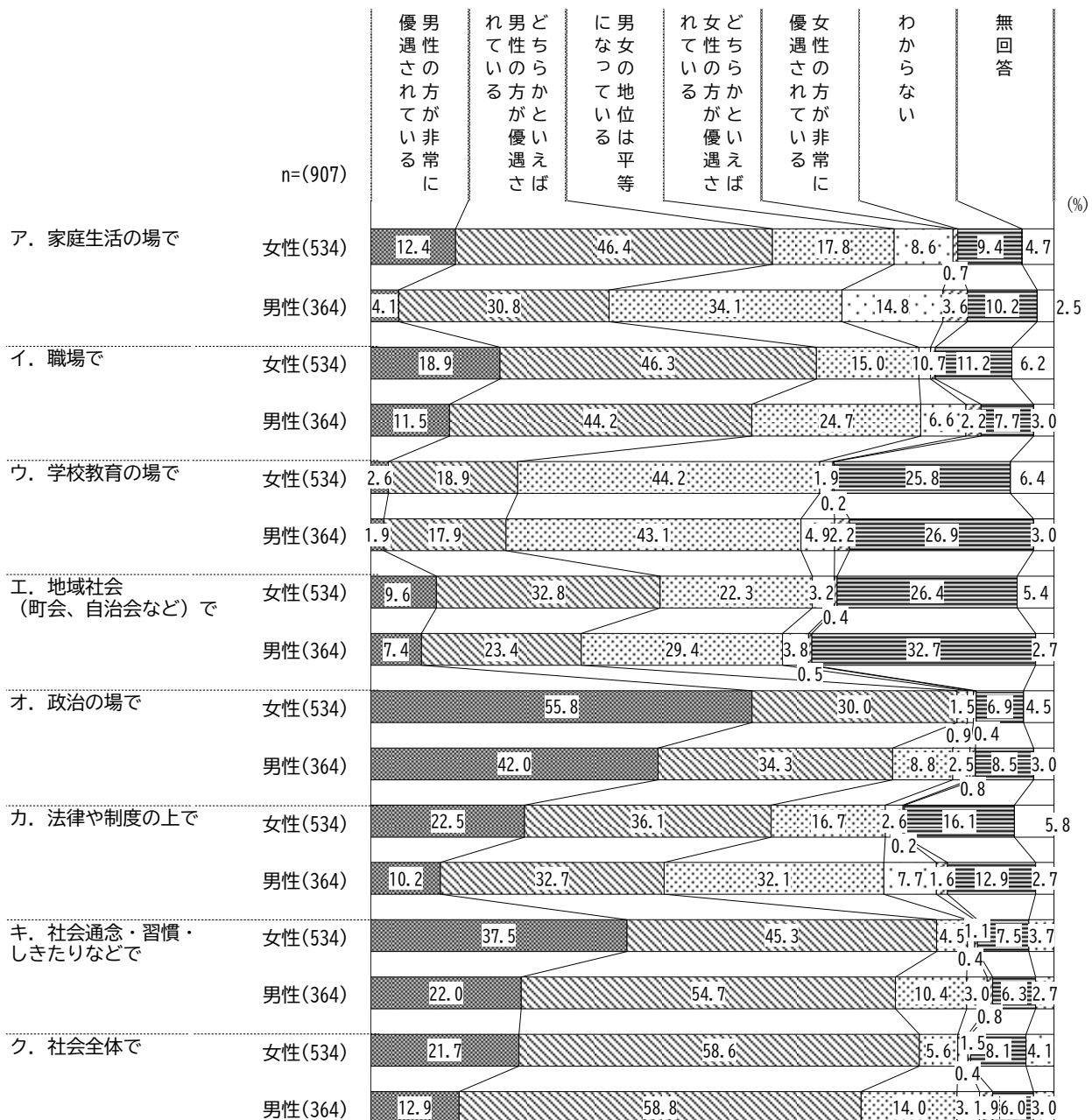
(1) 男女の地位の平等感

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

男女の地位の平等感を性別でみると、男女共に「男女の地位は平等になっている」という回答が最も多いのは「学校教育の場で」である。「職場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・習慣・しきたりなどで」では、男女共に<男性優遇※>の割合が多い。

「家庭生活の場で」で「男女の地位は平等になっている」と回答したのは、男性が女性を16.3ポイント上回っている。「地域社会（町会、自治会など）で」では、男性は「わからない」が32.7%と最も多い。

※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計



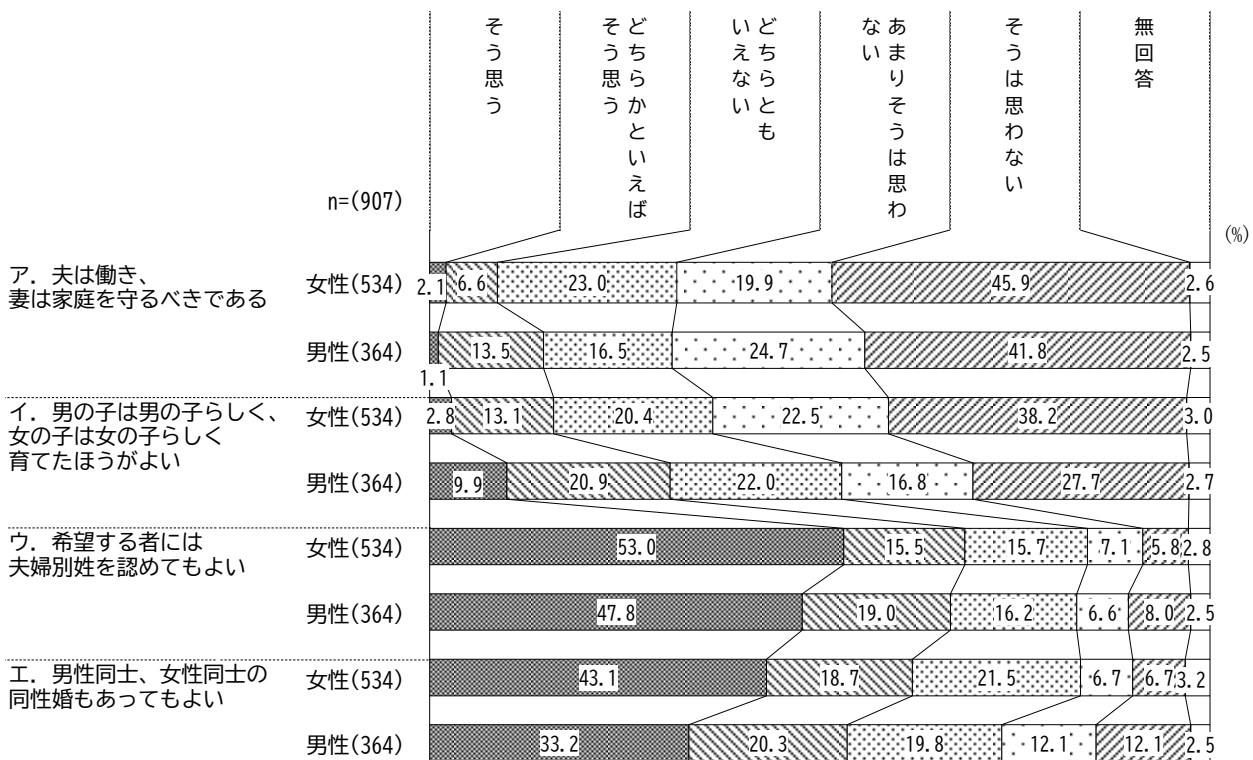
(2) 男女平等に関する考え方

問8 あなたは、次にあげるような考え方について、どのように思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

男女平等に関する考え方を性別でみると、「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」と「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」では男女共に＜反対意見※1＞が最も多い。一方、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」と「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」では男女共に＜賛成意見※2＞が最も多い。

※1 「あまりそうは思わない」と「そうは思わない」の合計

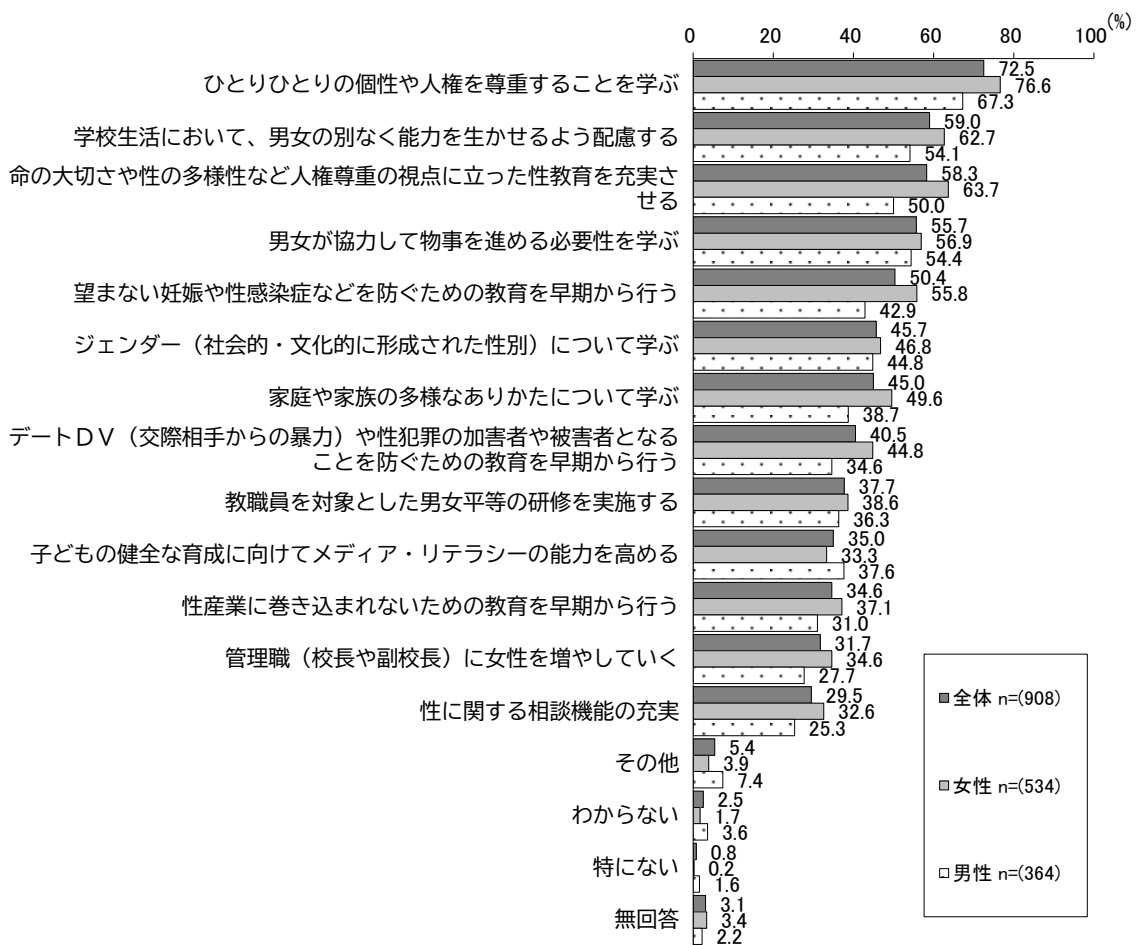
※2 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計



(3) 男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み

問9 あなたは、児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

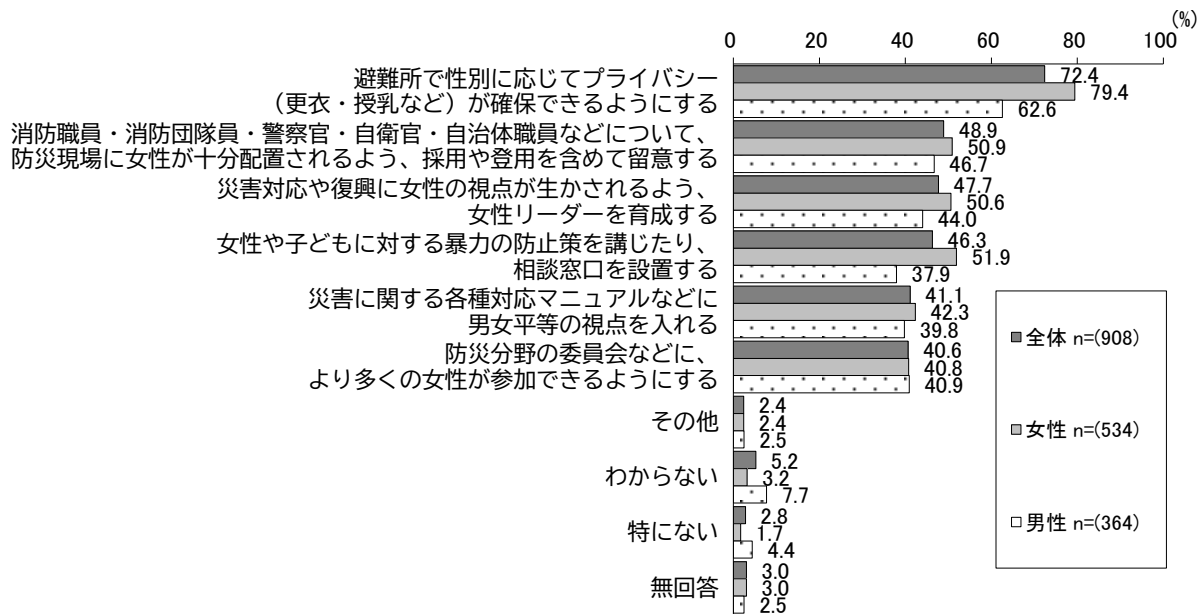
男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要だと思う取り組みを性別でみると、男女共に「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」(女性76.6%、男性67.3%)という回答が最も多い。「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」(女性63.7%、男性50.0%)では、女性が男性を13.7ポイント上回っている。



(4) 性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと

問10 あなたは、性別にとらわれない災害対策を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

性別にとらわれない災害対策を進めるために重要だと思うことを性別でみると、男女共に「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」（女性79.4%、男性62.6%）という回答が最も多く、女性が男性を16.8ポイント上回っている。



5 コロナ禍での行動変化について

(1) コロナ禍での生活や行動の変化

問11 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大により、生活や行動に次のような変化がありましたか。(〇はそれぞれ1つずつ)

コロナ禍での生活や行動の変化を性別でみると、男女共にすべての項目で「どちらともいえない」が最も多い。

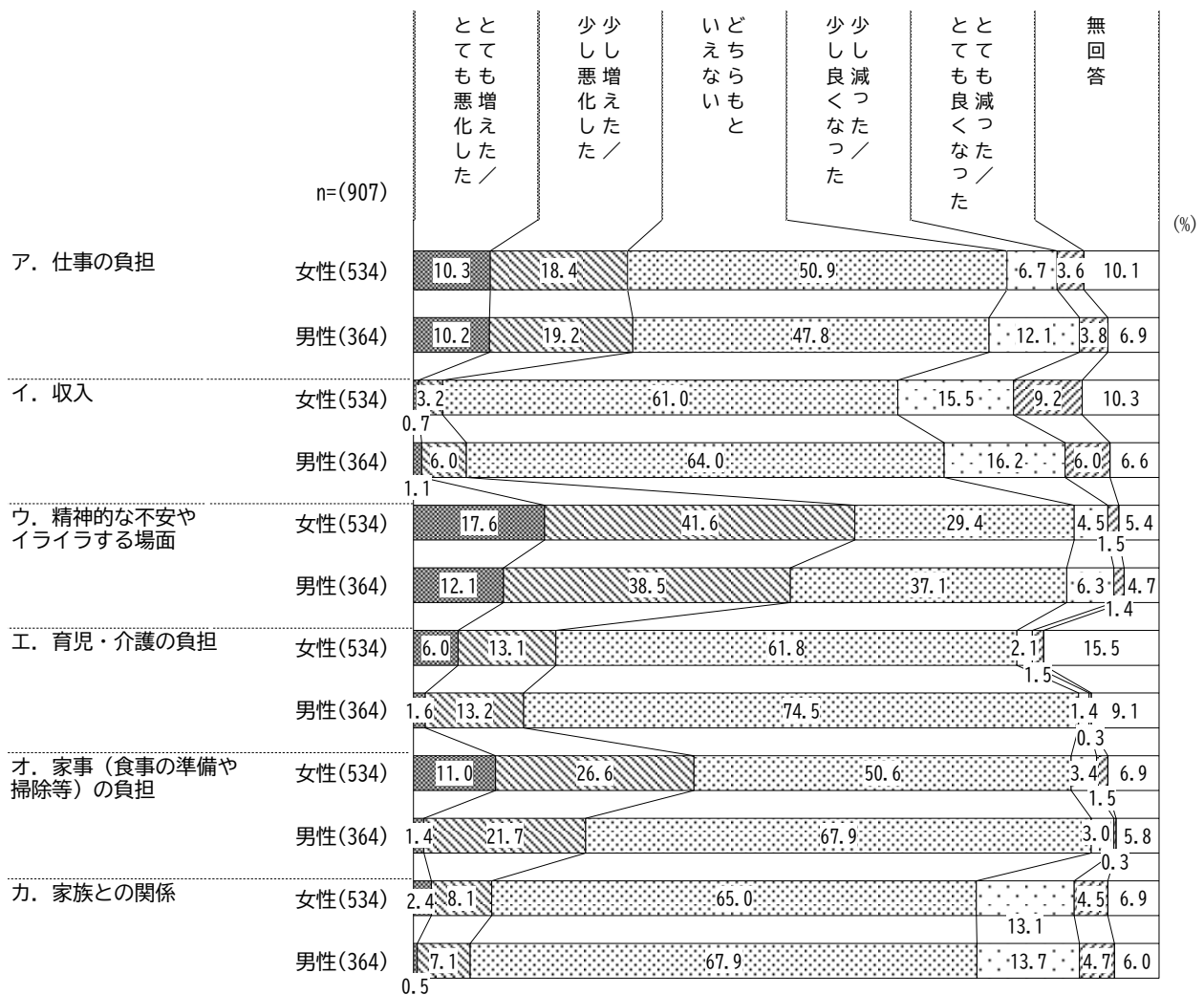
変化をみてみると、「仕事の負担」、「収入」、「精神的な不安やイライラする場面」、「家事（食事の準備や掃除等）の負担」、「育児・介護の負担」では男女共に<悪化※1>が多い。一方、「家族との関係」は男女共に<好転※2>が多い。

※1 「とても増えた／とても悪化した」と「少し増えた／少し悪化した」の合計

(イ 収入のみ「少し減った」と「とても減った」の合計)

※2 「少し減った／少し良くなった」と「とても減った／とても良くなった」の合計

(イ 収入のみ「とても増えた」と「少し増えた」の合計)

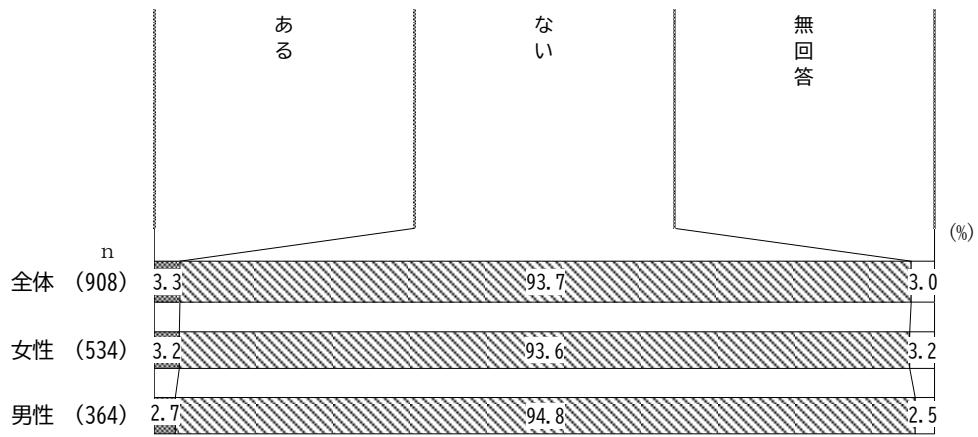


6 性の多様性について

(1) 自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無

問12 あなたは、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことがありますか。(○は1つ)

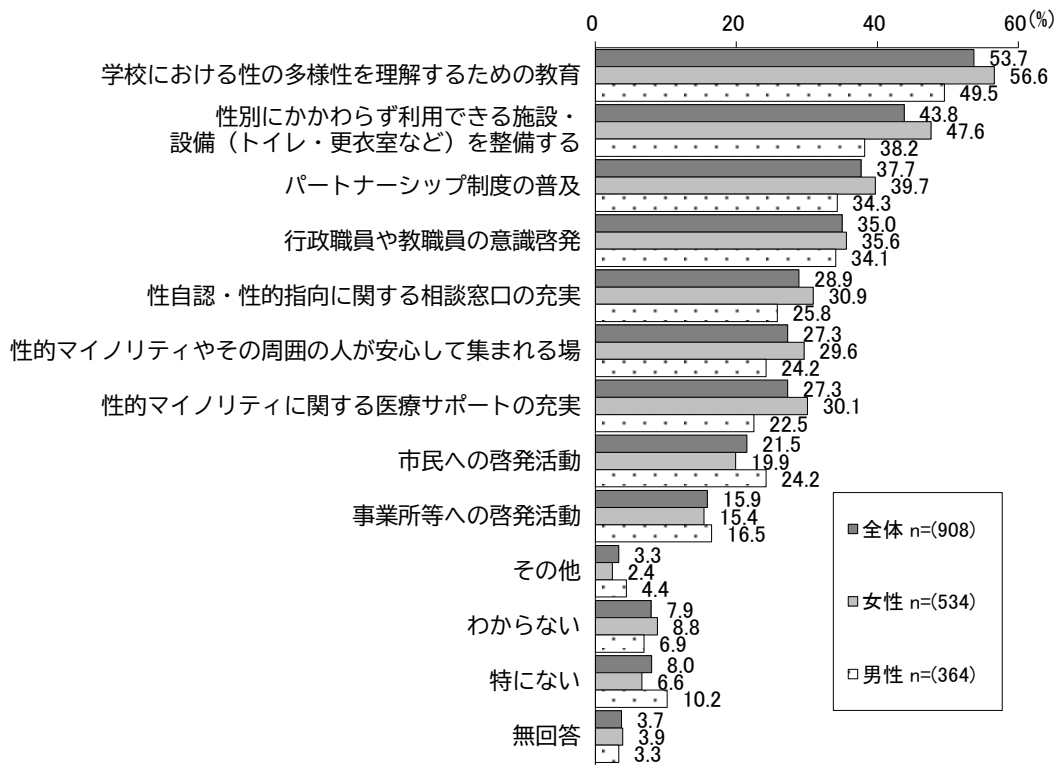
自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことがある人は、全体で3.3%、性別で見ると女性3.2%、男性2.7%である。



(2) 性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策

問13 あなたは、性の多様性を認め合う社会をつくるために、市にどのような施策を期待しますか。(〇はいくつでも)

性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策を性別で見ると、男女共に「学校における性の多様性を理解するための教育」(女性56.6%、男性49.5%)という回答が最も多く、女性が男性を7.1ポイント上回っている。「性別にかかわらず利用できる施設・設備(トイレ・更衣室など)を整備する」(女性47.6%、男性38.2%)では、女性が男性を9.4ポイント上回っている。「市民への啓発活動」(女性19.9%、男性24.2%)では、男性が女性を4.3ポイント上回っている。



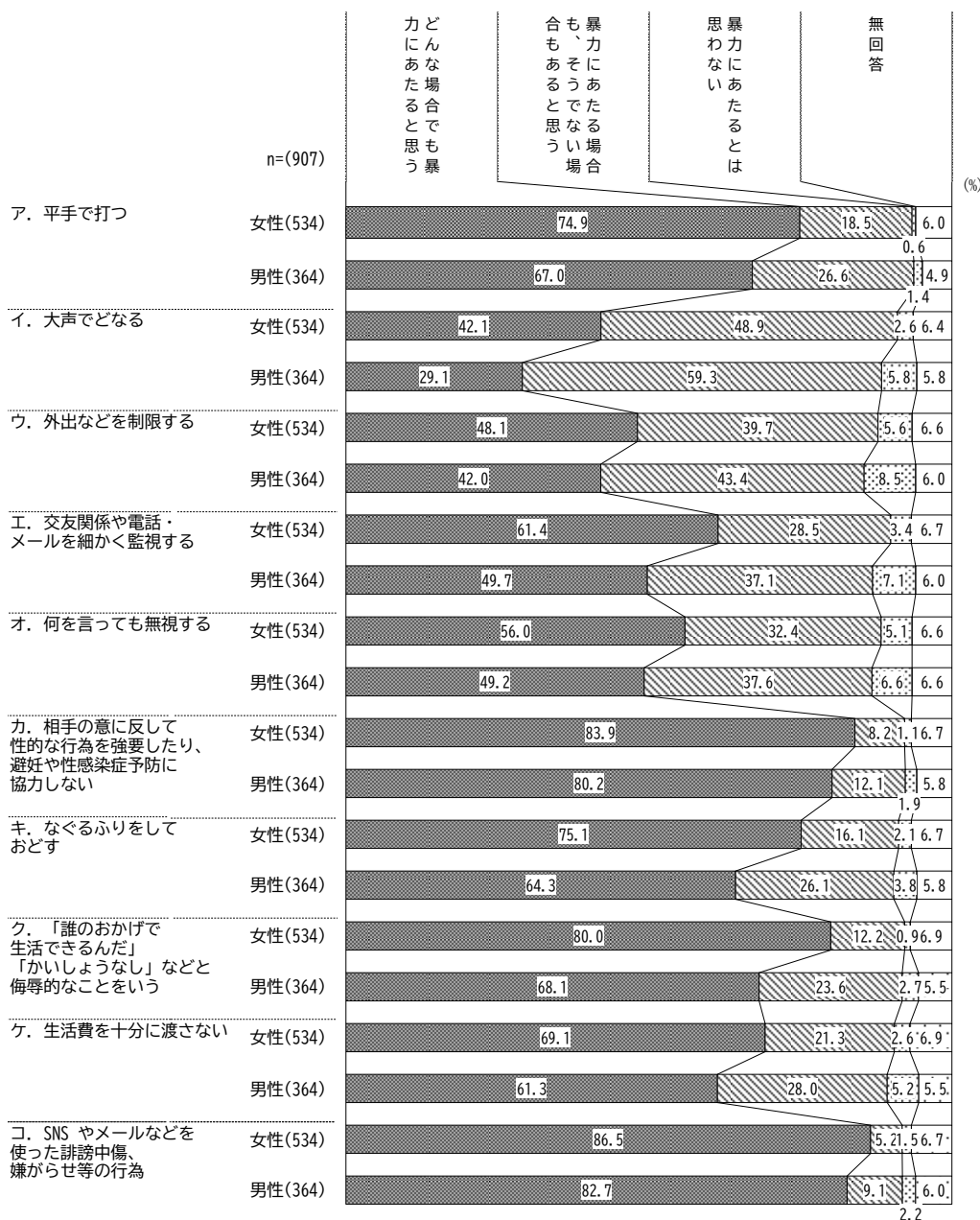
7 暴力やハラスメントについて

(1) 暴力にあたると思うことと被害の経験

問 14 あなたは、親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。(〇はそれぞれの数字に1つずつ)

【どう思うか】

親密な間柄で起きる行動について、それが暴力にあたると思うかを聞いたところ、男女共に「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多い項目は、「平手で打つ」、「相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」、「なぐるふりをしておどす」、「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」、「生活費を十分に渡さない」、「SNSやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為」である。

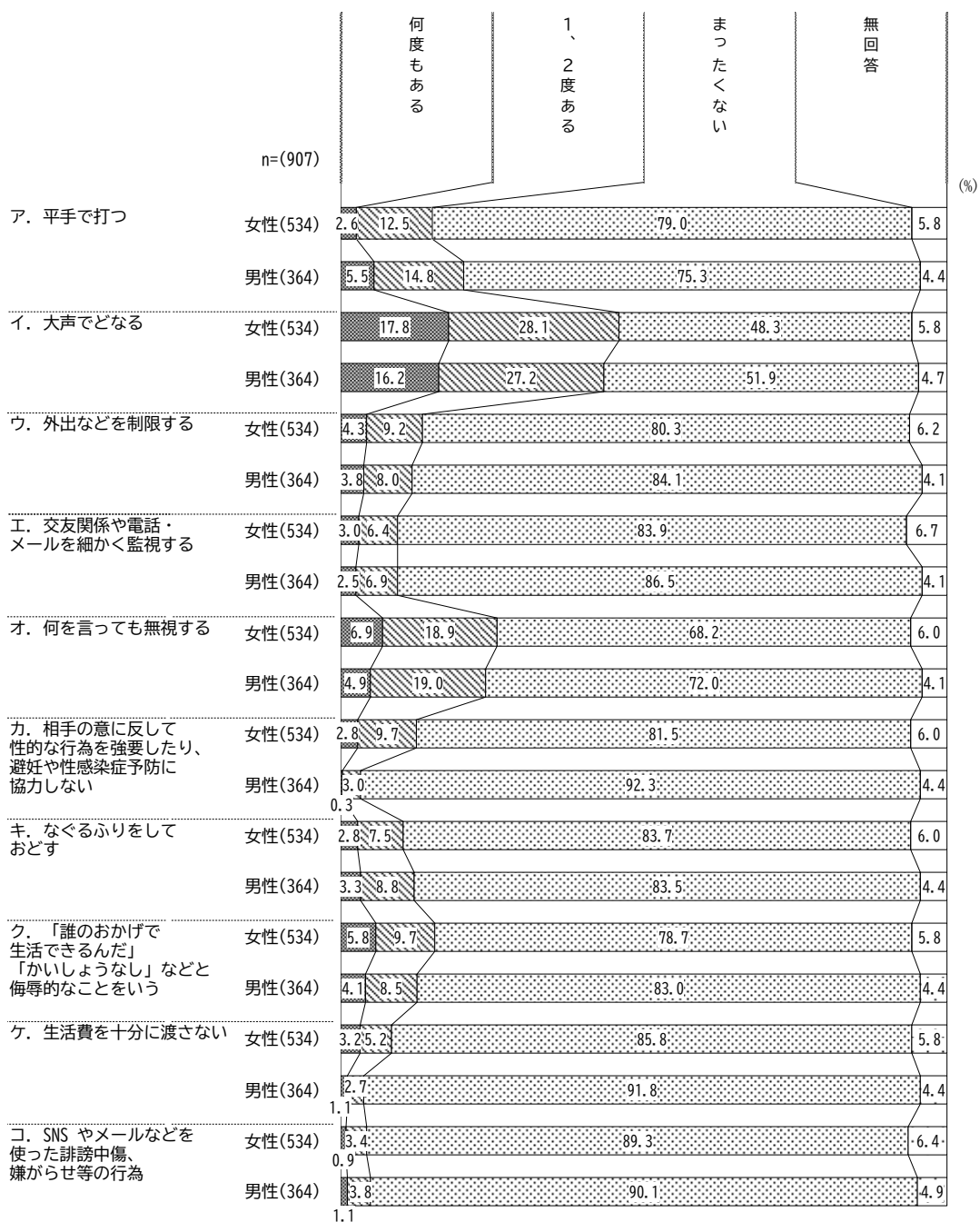


問 14 また、これまでに配偶者（事実婚や元配偶者を含む）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれのアルファベットに1つずつ）

【されたことがあるか】

されたことがある行動を性別でみると、男女共に<されたことがある※>が多い項目は、「大声でどなる」、「何を言っても無視する」である。

※「何度もある」と「1、2度ある」の合計

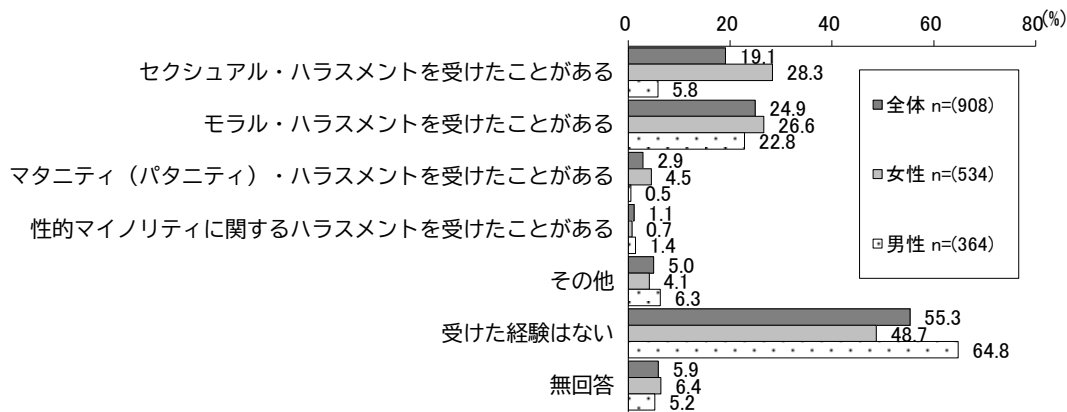


(2) ハラスメントを受けた経験

問15 あなたは、ハラスメントを受けた経験がありますか。(〇はいくつでも)

ハラスメントを受けた経験を性別でみると、女性は「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」が28.3%と最も多く、男性は「モラル・ハラスメントを受けたことがある」が22.8%と最も多い。

一方、「受けた経験はない」では男性が女性を16.1ポイント上回っている。

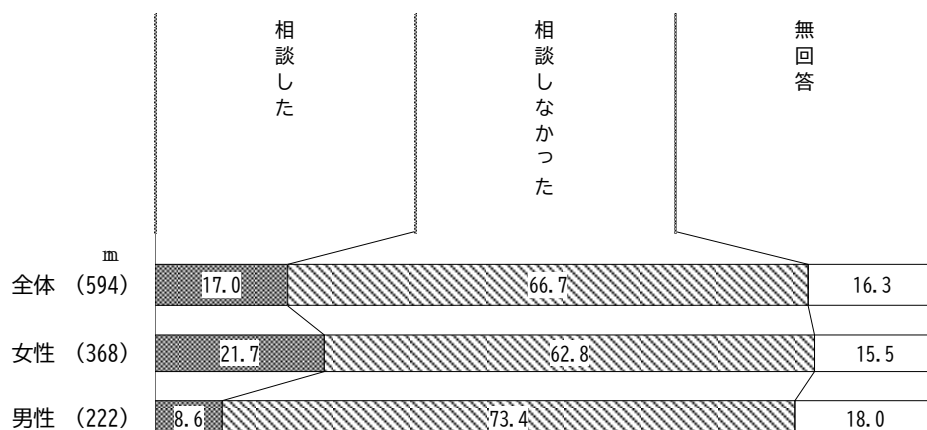


(3) 受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか

問14で「AまたはB」といずれかの項目で回答した方、問15で「1から5」のいずれかを回答した方にお聞きします。

問16 あなたが受けた暴力やハラスメントについて、どこか（誰か）に相談しましたか。(〇は1つ)

問14で「何度もある」または「1、2度ある」、問15で何らかのハラスメントを受けた経験があると回答した方に、受けた暴力やハラスメントについてどこか（誰か）に相談したかを聞いた。回答を性別でみると、男女共に「相談しなかった」（女性62.8%、男性73.4%）という回答が最も多く、男性が女性を10.6ポイント上回っている。

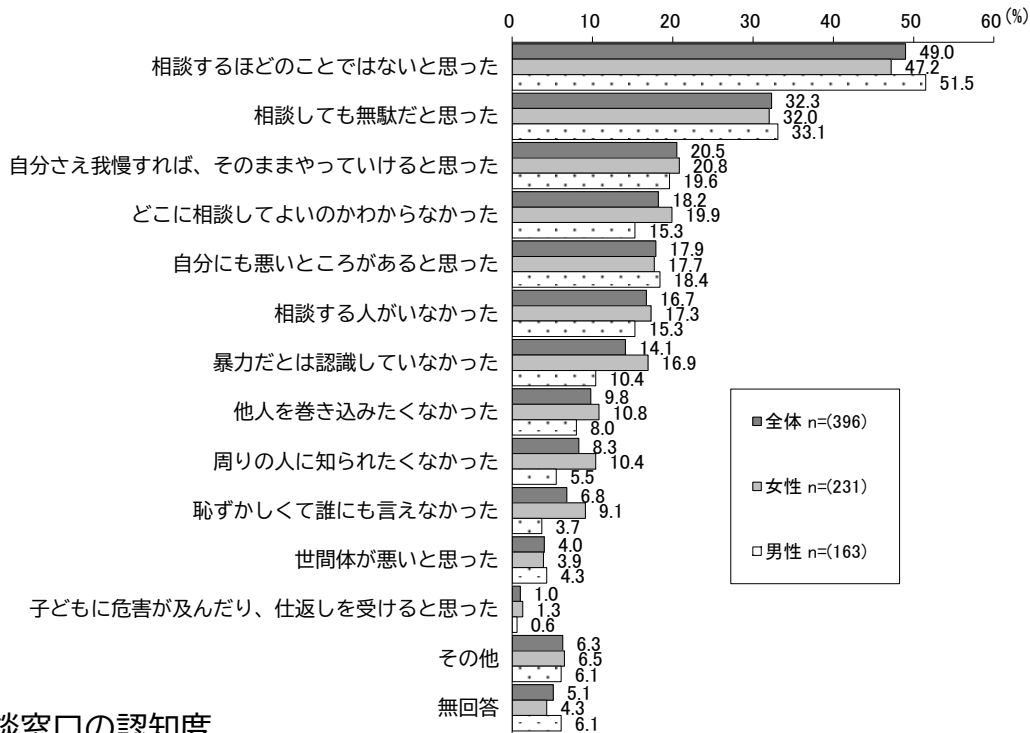


(3-1) 相談しなかった理由

問16で「2. 相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問 16-1 相談しなかった理由としてあなたの考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

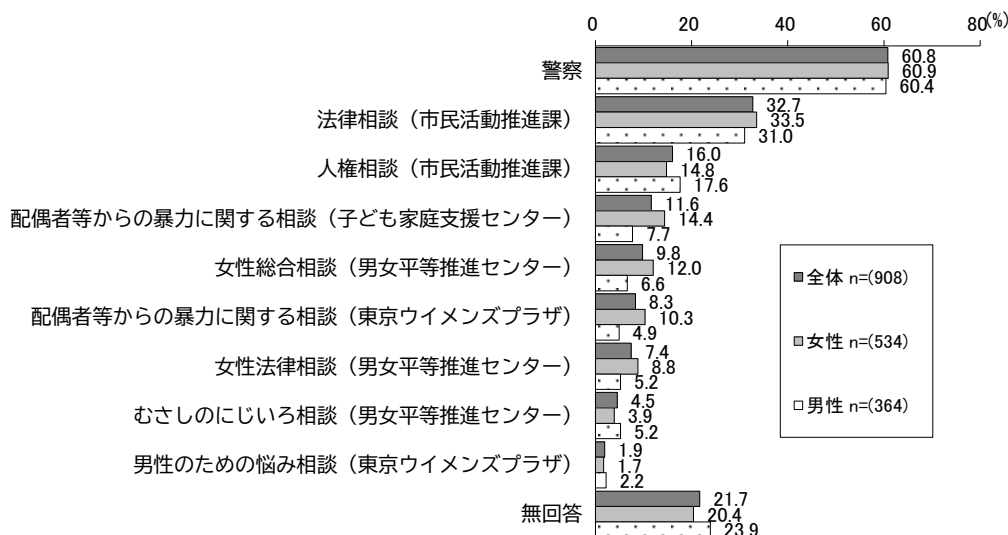
相談しなかった理由を性別で見ると、男女共に「相談するほどのことではないと思った」(女性47.2%、男性51.5%)という回答が最も多く、男性が女性を4.3ポイント上回っている。「暴力だとは認識していなかった」(女性16.9%、男性10.4%)では女性が男性を6.5ポイント上回っている。



(4) 相談窓口の認知度

問17 あなたは、下記の相談窓口などを知っていますか。(〇はいくつでも)

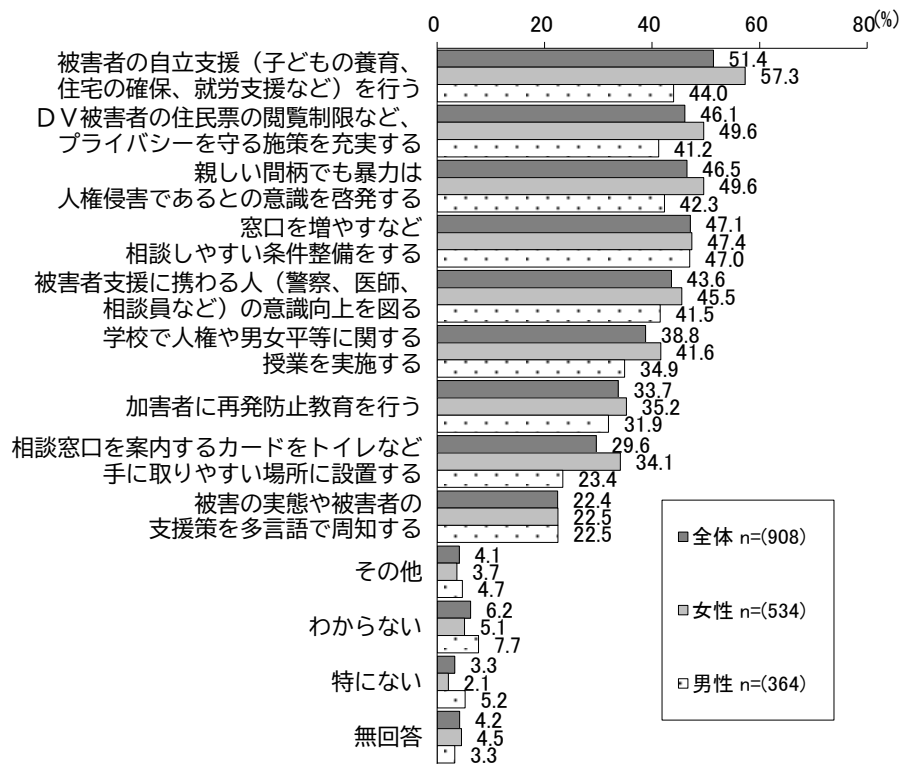
相談窓口の認知度を性別で見ると、男女共に「警察」(女性60.9%、男性60.4%)という回答が最も多く、次いで「法律相談(市民活動推進課)」(女性33.5%、男性31.0%)となっている。



(5) 配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために必要な施策

問18 あなたは、配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために、武蔵野市の施策として何が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために必要だと思う武蔵野市の施策を性別でみると、男女共に「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」（女性57.3%、男性44.0%）という回答が最も多く、女性が男性を13.3ポイント上回っている。

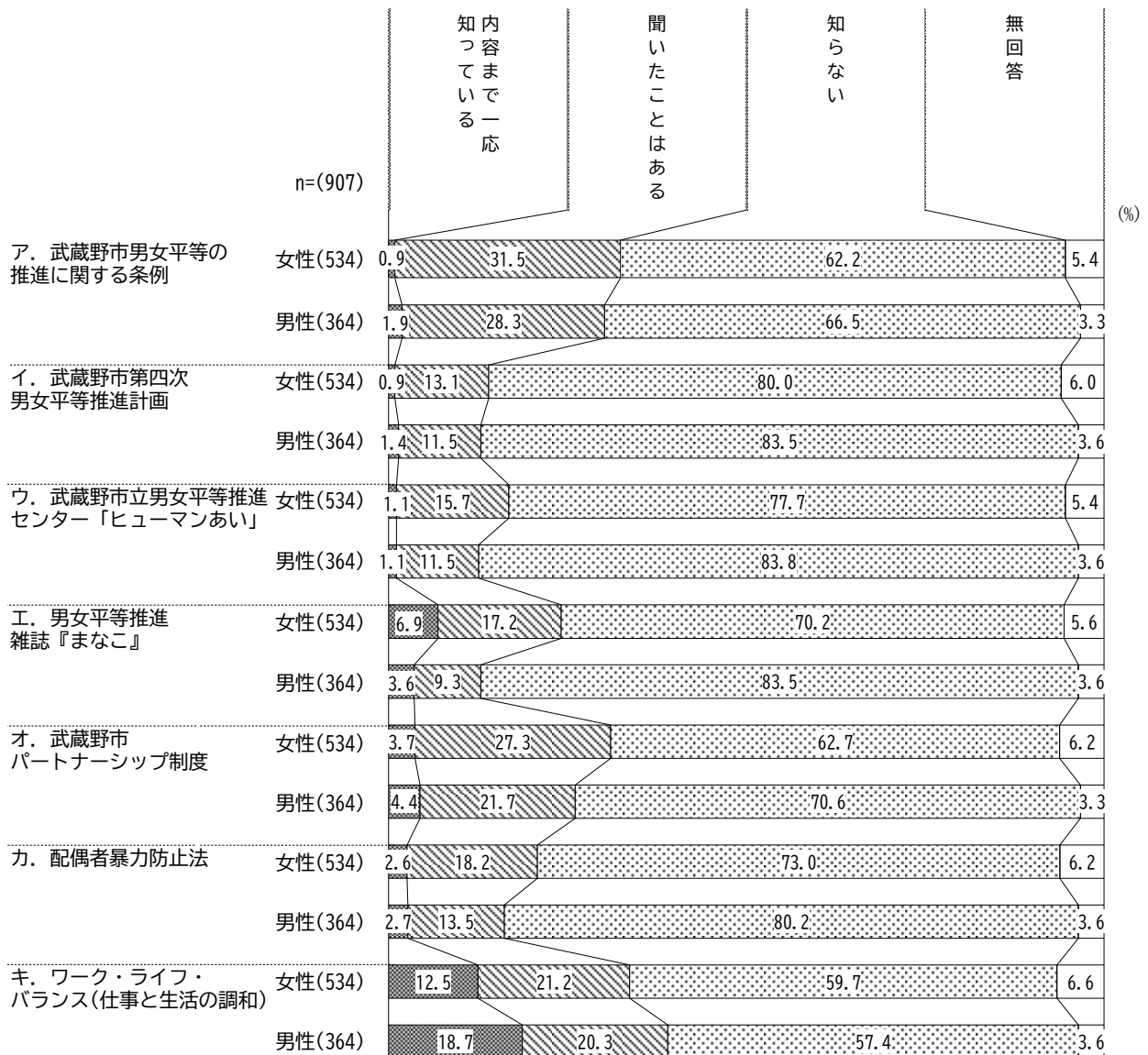


8 市の施策について

(1) 男女平等に関する言葉や武蔵野市の取り組みの認知度

問 19 あなたは、次の言葉や武蔵野市の取り組みを知っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

男女平等に関する言葉や武蔵野市の取り組みの認知度を性別で見ると、「内容まで一応知っている」では男女共に「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（女性12.5%、男性18.7%）が最も多く、「男女平等推進情報誌『まなこ』」は女性で6.9%である。



(2) 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと

問20 あなたは、男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

男女平等社会を実現するために市の施策に望むことを性別でみると、男女共に「保育・介護制度の充実」(女性57.1%、男性40.4%)という回答が最も多く、女性が男性を16.7ポイント上回っている。次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」(女性49.6%、男性38.7%)では、女性が男性を10.9ポイント上回り、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」(女性46.6%、男性29.1%)では、女性が男性を17.5ポイント上回っている。

